

## 関西大学独逸文学会記録 (2018年1月～12月)

その他のタイトル	Protokoll der Gesellschaft für Germanistik der Kansai Universität (Januar bis Dezember 2018)
雑誌名	独逸文学
巻	63
ページ	139-140
発行年	2019-03-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00018682">http://hdl.handle.net/10112/00018682</a>

# 関西大学独逸文学会記録

(2018年1月～12月)

2018年度総会および第111回研究発表会

日時：2018年11月17日（土）13時00分～17時30分

場所：関西大学（千里山）第1学舎5号館E403教室

○研究発表会

【ゼミ発表】

(学部3、4年生によるもの。司会は本学教授・佐藤裕子)

1. 関口美冬、東原美月

新高ドイツ語二重母音化について——シュタインヘーヴェル  
『イツップ寓話』の場合——

2. 小笠原卓子

物語の語り手 (Geschichtenerzähler) としてのオトフリート・  
プロイスラー」

3. 宮崎将吾

ドイツにおけるエネルギー政策の転換点——2022 原発ゼロに向  
けての現状と課題

【シンポジウム】

ハインリッヒ・フォン・クライスト『チリの地震』テキストを読む

司会：Robert F. Wittkamp（本学教授）

(1) 谷久留美（学部3年生）

クライストの生涯と作品

(2) 西田克生（学部3年生）

『チリの地震』のあらすじ

(3) 幸村有姫（学部3年生）

クライストの短編小説の提示

(4) 永沼琴子（本学大学院博士前期在学）

『チリの地震』と句読点

(5) Robert F. Wittkamp（本学教授）

表現層の意味化としての翻訳の問題

【研究発表】

嶋田宏司（関西大学非常勤講師）

ダダイスト、クルト・シュヴィッターズの鳥とアンナ・ブルーメ  
—ダダ的抒情詩「アンナ・ブルーメに寄せて」の解釈を試みて—

司会：宇佐美幸彦（関西大学名誉教授）

○総会

1) 会長挨拶

2) 編集報告

3) 会計報告